23. 明治以降の日本の人口曲線……篠崎　吉郎（帝塚山大学）
24. 年齢5歳階級別人口動態率の各歳率への補間
　—スプライン補間とモデルを用いた補間……南條　善治（福島県立医科大学）
　重松　峻夫（福岡大学）
　吉永　一彦（〃）

○会長講演
　人口問題の所在……畑井　義隆（明治学院大学）

○シンポジウム「明日の人口と資源を考える」　<組織者>　石光　亨（神戸大学）
　<座長>　岡崎　陽一（日本大学）
　加藤　寿延（亜細亜大学）
1. 食糧と人口……唯是　康彦（千葉大学）
　<討論者>　松下敬一郎（人口問題研究所）
2. エネルギーと人口……宇田川武俊（農林水産省草地試験場）
　<討論者>　大淵　寛（中央大学）
3. 水資源と人口……森滝健一郎（岡山大学）
　<討論者>　河邊　宏（日本大学）

なお，明年の第40回大会は日本大学（東京都千代田区）において開催されることが，今回の大会の会員総会において決定されたが，期日は6月3日（金）～5日（日）のころが予定されている．そのための大会運営委員会がこのたび設置（委員長は高須裕三日本大学人口研究所長）され，これに呼応して，大会プログラム委員会（岡崎陽一委員長）もシンポジウム，共通論題報告のテーマの選定などの検討に入り，第40回という記念すべき大会へ向けての準備ないし運営活動が始まった．

（山口喜一記）

ルクセンブルクにおける「子供と老人の生活と福祉に関する国際会議」

1987年6月7日から11日までルクセンブルクのヨーロッパ・センターで標記の会議が開かれ，日本からはただ一人河野稠果所長が出席した．会議は同じ名称の準備会議が今年2月にワシントンで開催されているが，今回は規模が大きい本会議で，西欧の全地域，それにポーランド，米国，カナダ，オーストラリア，ニュージーランド，ＯＥＣＤ，日本から約60名の専門家が出席した．本会議は前回と同じくアルフレッド・スローン財団，フォード財団，ユタ大学，そしてUrban Instituteの財政的支援による．

河野所長は前回と同じくペンシルバニア大学のサミュエル H．プレストン教授と共著でTrends in Well-being among Children and the Elderly in Japanと題したペーパーを提出し，質疑応答に答えた．今回の会議で感じたことは，西欧社会（米国，カナダを含め）ではいわゆるプレストン効果といわれる，人口高齢化が進めば老人の福祉が進み，老人に関する産業は成長産業となり，青少年に関する産業（教育）は逆に衰退産業となり，損をするのは老人でなく青少年だというテーマが暗黙のうちに西欧全体で認められているということであろう．老人は青少年に比べ相対的に数倍恵まれているというものである．

さてはたして日本の状況はいかがなものであろうか．これについて，近く論文として当『人口問題研究』に掲載される見込みである．

（河野稠果記）